

令和元年度 第4回 豊田市男女共同参画推進懇話会会議録

- 日時 令和元年11月13日（水） 午前10時00分～11時30分
- 場所 とよた男女共同参画センター 21会議室
- 出席者 懇話会委員 石田路子（座長）、吉野まり子（副座長）、尾原洋子
松井恒雄、伊藤健一、若月めぐみ、古澤三秀、野村文子

事務局 生涯活躍部副部長 清水、市民活躍支援課長 濱田
とよた男女共同参画センター 深谷、柳野
- 欠席者 斎藤万里、大代知穂

1 開会

清水副部長挨拶

2 議事

（1）第4次クローバープランの改定について（協議）

事務局が資料に基づき説明。

<発言>

①四つの葉の位置付けについて

- | | |
|-----|--|
| A委員 | プランの四つの葉は、第3次プランのライフステージから大きく変わった印象を受けた。どの年齢においても常にこの4つの要素を願うものと理解した。 |
| B委員 | 四つの葉をシンボルと表現しているが、その意味付けと施策とどうリンクさせるかが重要である。今回「楽しい」を基本理念に加えたが、その視点から四つの葉の「想い」に至った説明ができるとうよい。また、たくさん課題が挙げられているが、明確な課題が何か分かりにくい。課題と4つの「想い」もリンクするとよい。 |
| C委員 | 四つの葉②に「生き生き」とあるが、漢字よりカタカナにすればもっと柔らかいイメージになるのではないかと。 |
| D委員 | 四つの葉は、まだ成し得ていない、これからの課題に対する問題提起という印象である。たくさんある課題を集約するとこの4つにまとめられるとうよい。 |
| E委員 | 多様性が四つの葉のどれにも貫かれている。学校でも特に気を付けている部分であり、うまく表現されている。 |
| F委員 | 四つの葉②「生き生きと楽しむ」はよい視点だと思う。高齢者でもエネルギーが有り余っている人もおり、教育の場面などで活躍できる枠組みをつくれるとうよい。 |

- G委員 男女、年齢に関係なく生き生きと暮らせるような目標は活動している中でも重要だと感じる事なので、とてもよいと感じた。
- H委員 先日、区長会役員会で地域活動への女性参画を促すチラシをもらったが、今地域では民生委員や地域会議委員の選出の時期であり、タイムリーな啓発だと感じた。すぐに女性委員の増加が実現するかわからないが、啓発が大事だと感じた。
- B委員 四つの葉が、1次から3次までのプランのライフステージ視点から変わったことのアナウンスが、プラン前段に必要である。四つの葉の想いをシンボルではなく、今後の取り組みのベースにしていくということをきちんと表現することが4次プランの重要な切り口だと思う。シンボルに代わるいい言葉がほしい。
- A委員 シンボルだと的がぼやけてしまう。これから私たちが進む方向、目標という意味だと思う。
- B委員 四葉のクローバーには「誠実」「愛情」「希望」「幸福」という意味がある。その4つで表現する方法もある。
- D委員 クローバーそのものにシンボルという意味がある。シンボルというクローバーの中で、皆が進むべき道、ゴールという表現はどうか。しかし、大切なのはゴールに至るプロセスとプロセスを真剣に楽しむことである。
- B委員 後段の施策の部分に「楽しい」という表現が出てこない。出てくると基本理念を変えたことが伝わりやすい。
- A委員 シンボルという表現の部分はもうひと工夫必要である。懇話会の課題として各自考えて、いい表現がみつければ事務局に伝えてほしい。また人は自尊の念、誇りを持って生きることが大切であり、苦しいときも誇りを持って乗り越えられれば、また楽しみが見えてくる。重要なキーワードなので、四つの葉②の説明文に「誇り」という言葉を入れてほしい。

②家庭や地域での男女共同参画の取り組みについて

- A委員 市民参画が各所で進められているが、活動していない人をどう動かすかが重要である。
- H委員 女性を委員に選出してもらうためには、依頼の仕方が重要。強力に進めるなら3人のうちの1人など人数を指定した方がよい。
- B委員 地域では女性の参画があまり進んでいないが、ダイナミックに変えるならフランスのパリテ法のように強制力を持たせることやトップを女性に変えることが有効。学校では女性校長が増えてほしいが変わった。
- E委員 教育現場では、生徒間に男女による意識差は少ない。しかし、PTA会長は男性など脈々と続いているものもあり、きっかけがないと変わらない。

- C委員 企業は規則などをつくれれば進むが、家庭は難しい。家庭向けにもガイドラインをつくってはどうか。あると分かりやすい。
- G委員 重点取組1（2）に「家庭訪問」という事業があるが、どういうものか。
- 事務局 これまでは会社訪問をしてきて一定の成果を上げたと思われるため、次は家庭に拡充したいと考えている。一軒単独の訪問が難しいなら、区民会館等に複数の家庭に集まってもらってもよい。
- F委員 P T A役員もやれる人がやればいいと思うが、やりやすいように決まりを変えていけられるとよい。決まりなどがおかしいと気楽に言える社会になるとよい。
- A委員 例えば、組織の代表者が育児のために時短勤務にするなど、積極的に行動することが大事であり、それが特例にならないようにしなければならない。P T A役員は自営の人が多いのか。
- E委員 市内には地域貢献に理解のある事業所の方も多し。その事業所の従業員が担っていることが多い。
- C委員 ある企業ではボランティア休暇など様々な制度があり、それを活用して参加することが可能である。
- 事務局 市の関係では時間単位で有休をとれるため、参加しやすいことがある。
- A委員 休みをとれない人でも参加できるようにするための対応も必要である。
- E委員 能力があっても一歩踏み出せない女性も多いので、参画しやすいように変えていきたい。
- A委員 地域には眠っている人材が多い。指針やルールをつくれれば、参画の可能性も高まるかもしれない。
- D委員 家庭は極めてプライベートな空間であり、それぞれで異なる。それぞれがどのようにワーク・ライフ・バランスをとっているか番組を作って放送するプロジェクトはどうか。豊田スタイルを可視化する。企画の段階から市民を巻き込むことで大きな達成感が得られるとともに、SNSで発信するより大きな効果が期待できる。
- A委員 多くの市民に理解を得るには、実例を知ってもらうことが重要。プラン改定のタイミングは、これまでと異なるツールを使うチャンスである。
- B委員 新プランの素案には課題が挙げられているが、数が多く、どれが重要かピンとこない。また策定のポイントとのリンクも分かりづらい。課題、策定のポイントから四つ葉のクローバーのつながりが分かりやすくなるとよい。
- A委員 大変だが、プラン全体の流れ・構造を簡単に理解できるよう図式化できるとよい。

(2) 豊田市ワーク・ライフ・バランスキャンペーンについて（報告）

事務局が資料に基づき説明。

D委員

ワーク・ライフ・バランスキャンペーンの街頭活動のPR方法として、ゆるキャラと一緒にやるのはどうか。キャンペーンのゆるキャラを作ってみてもよいかもしれない。

(3) 男女共同参画に関する行政視察の実施について（報告）

事務局が資料に基づき説明。

質疑なし。

3 その他

パブリックコメントから次回懇話会までのスケジュールを説明。

4 閉会

濱田課長挨拶